

2006 パートナーシップで進めるまちづくり勉強会

中標津町パートナーシップで進めるまちづくり町民会議

講演

住民と役所の「幸福な結婚」を求めて
～中標津方式のパートナーシップを発明しよう～

北海学園大学法学部教授 樽見 弘紀 氏

【講師紹介】

樽見 弘紀 Hironori Tarumi
北海学園大学法学部教授
北海学園大学大学院法学研究科（政治学）教授

ニューヨーク大学公共行政大学院 (Robert F. Wagner Graduate School, NYU) 修了。立教大学法学研究科政治学専攻博士後期課程単位取得。1999年4月より札幌の北海学園大学勤務。現在、同大法学部教授。専門は、政治学、行政学、公共政策学と非営利組織（NPO）論。公職として他に、日本NPO学会理事、北海道NPOバンク理事など。著書に『NPOデータブック』（共著、有斐閣）、『アメリカに学ぶ市民が政治を動かす方法』（共訳、日本評論社）、『市民の道具箱』（共著、岩波書店）、『「企業の社会的責任論」の形成と展開』（共著、ミネルヴァ書房）など。

と き 平成 18 年 8 月 8 日（火） 19：00～

ところ 役場 301 号会議室

住民と役所の「幸福な結婚」を求めて
～中標津方式のパートナーシップを発明しよう～
北海学園大学法学部
樽見 弘紀

はじめに： 事の始まりはお見合いか恋愛か...それが問題だ

「幸福な結婚」の条件： 気配りこまやかな「仲人」の役割が大切
・触媒組織を発明しよう
・事例：北見市の「北見テーブル」

「幸福な結婚」の条件： 「家計」の独り占めはもってのほか
・役割分担を担保する資源分配を考える
・事例：市川市（千葉）の「1パーセント支援制度」

「幸せな結婚」の条件： 「地縁」「血縁」に劣らない「選択縁」
・「行政区」の境界線がぼやけ、「住民」の意味内容が拡散している
・事例：伊達市の「心の伊達市民」

「幸福なパートナーシップ」実現の7つのキーワード

小さな成功体験

住民と自治体相互の「できる感」の醸成

インセンティブ

それぞれのアメとそれぞれのムチのデザイン

ヨソモノ

まちぢからの再発見

焼き直し

自治体政策の相互参照

中標津方式

些細でもきらりと光る「中標津発」

アウトリーチ

段階的な達成をまちの内外に不断に知らせる努力

足による投票

「ヒトを幸せにするまち」中標津を求めて

おわりに： 自治体間競争にのるかそるか...それが問題だ